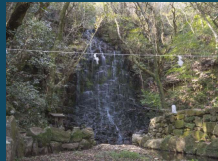


1

たきじんじゃ
瀧神社

創建された年は不明ではあるが1392年に再建された記録があることから、1926年には都農神社の末社の指定を受けた。神社には水の神である、高麗神が祀られている。本堂の裏には不動の滝があり、農耕や耳病平癒の信仰がされていた。配所にある大小さまざまな石があるのは、人々が耳病の治りを祈願し奉納したものである。またその石は浜辺にある穴の開いた「浜下り石」が奉納されている。春と秋にはそれぞれ、春祭（春彼岸の中日）と秋祭（秋彼岸の中日）が行われていた。（大宮）

6

ふじみこうえん
藤見公園

藤見公園では、宮崎で開催される国体の競技のうちホッケーが行われるそう。
「Web情報」そのほか、陸上競技場・西側多目的広場（サッカー場）・野球場・東側多目的広場（ソフトボール場）・テニスコート・屋内運動場などの運動施設が設置されている。
また、都農町で行われる様々なイベントの拠点として利用されている。ミニサッカー大会の会場から、フリーマーケット「ふじみ市」や人気の「肉グルメフェスタ」、犬のイベント「ワンワンランパブリ」など、様々な用途で利用もされている。
広い広場もあり、親と子供たちが一緒に遊ぶ空間もある。（西川）

2

つのわいなりー
都農ワイナリー

地元のブドウ、キャンベル・アーリーを中心に国内外のコンテストで多数受賞するなど、宮崎の豊かな日照を生かしたワイン造りをしている。また、自社管理畑の8.5haでは、シャルドネやシラーを中心に国際品種にも着手している。土作りや草生栽培など独自の技術で栽培しワインを造っている。都農町では年間4000ミリ以上の雨が降ることもあり、世界のブドウ産地と比較してもその量は5～8倍もの雨が降る。さらに九州では収穫期の8～9月に台風が幾度となく襲来して、ブドウに大きな被害をもたらす。そのため、畑に溢れる雨の排水対策や防風林の植樹、ビニールトンネル栽培、棚作りの工夫など、悪天候に苦闘しながら対策を行い、適正品種を更新して、都農の風土を反映するブドウを育ててきた。
この土地には尾鈴山から流れる冷たい地下水の水路があり、地温が低いことも有利に働く。ヴェレゾン期（着色期）には昼夜の寒暖差がしっかりとることがあるが、ブドウが完熟する大きな条件になる。
都農ワインの牧内ヴィンヤードは、この地温が低いおかげで日本の南に位置する南国宮崎の土地でもしっかりと寒暖差を確保することができ、しっかりと熟したブドウを採ることができる。（児島）



3

ぎょうしんじ
行真寺

大正13年に行真和上によって開山された。2階の本堂は平成10年に完成した。先代住職順教和上の設計をもとに現住職が建立した。宝塔をイメージした8角形をしている。南東方位を正面とし、朝日が本尊に当たるようになっている。1階は空手道部の練習場として使用されている。行真寺は尾鈴山脈を背景に日向灘を望む高台にあり、朝夕6時の梵鐘（ばんしょう）の響きに、朝は日向灘の陽光に鳳凰の舞いを顕現し、夕は何事もなかったかのように地球を愛しく包み抱くと安らぎの世界へと誘う。行真寺は歴史のあるお寺でありながら、1階は空手道部の練習場として使用されているなど、地域の若者や高齢者の交流の場にもなっていると考えられる。（児島）

5

なし、スイカ、きういばつけ

梨、スイカ、キウイ畑



広がる畑には、梨とスイカが丁寧に育てられていて、のどかな風景が広がっている。整えられた畝からは、これから実りを迎える準備が着々と進んでいることが伝わってくる。奥にはビニールハウスが並び、季節や気候に応じた栽培が行われている様子が見取れる。周囲には民家や林があり、自然と人の暮らしが調和する地域ならではの景観。行った時は、晴れた空と緑のコントラストが美しく、ほっとするような心地よさがあった。地域の魅力をもっと深く知って、未来につなげていきたいと感じた。（谷口）

キウイが良く育つ環境は、日当たりと風通しの良い場所であり、温度15～25℃が最適である。また、乾燥や高温多湿の環境は不向きである。土壌面では、排水性がよく水はけが悪くない土地であること、pH6.0～6.5のやや酸性の土地であることが好ましい。都農の気温は温暖であり、梅雨や台風など雨がふり乾燥はしない。しかし、キウイを育てるには不向きな高温多湿の気候である。また、土壌は火山灰土壌の「黒ボク土」といわれるもので排水性に優れており、酸性の土壌ではあるものの、逆に酸性に傾きやすいという性質がある。そのため、都農でのキウイの栽培は高温多湿の対策や土壌の酸性のpHの調整をする必要がある。現在の都農のキウイはこのような点の改善の末、栽培されているものであると考えられる。（西川）

4

つのまきじんじゃ
都農牧神社

日向の馬は昔から有名で、日本書紀には推古天皇（554～628）が「馬ならば日向の駒」と言った記録が残されている。また905年には醍醐天皇（885～930）の勅令によって建設された朝廷直営の牧場の一つである都農野牧場が設置された。その後江戸時代には高鍋藩により都農野牧場が岩山牧となり、その際に牧場の守護神として祀られたのが都農神社であった。（大宮）



まとめ

フィールドワークに行き、都農町の昔ながらの無人販売所や広がる果樹園の風景などにどこか懐かしさとあたたかさを感じた。無人販売所では、野菜だけでなく、みかんの果物も売っていた。行真寺の静かな雰囲気や、行真寺へ行く途中の道のり、森林などの自然によるマイナスイオンを感じることができ、心を落ち着かせることができた。都農町の人々はとてもフレンドリーで、話しかけてくださることが多くあった。そのため、都農町に関する様々なお話を聞くことができ、これも実際に現地へ向かうフィールドワークの良さだなと感じた。都農町にはスーパーやコンビニが少なく不便ではあったが、公園や老人福祉館などの地域施設があり、住民の福祉を重視したまちづくりが進められていることが分かった。今回のフィールドワークを通し、事前学習でパソコンを使って調べているだけでは感じられない魅力を見つけることができた。ぜひ、都農町に実際に足を運んでみることを進める。

17班都農町地域資源マップ（谷口明菜、大宮俊通、児島遥、西川尚宏）

参照：なかいま企画：九州の神社、Copyright © いらすとや、All Rights Reserved.
【宮崎】醸造家とあるく都農ワイナリー | 日本の旬九州
Copyright © 2020 九州御朱印巡り All Rights Reserved.、© 2022 Mottox inc.